

高橋英光（2013年度日本英語学会賞（著書）受賞）

このたび、2013年度の日本英語学会賞を頂き大変光栄に存じます。受賞対象となった拙著 *A Cognitive Linguistic Analysis of the English Imperative: With Special Reference to Japanese Imperatives* (John Benjamins) は *Human Cognitive Processing* シリーズ第35巻として2012年4月に出版されたものです。内容は、認知言語学の観点からなされた英語命令文の包括的な研究です。まず命令文の1774例からなるデータの記述的分析を行い、つぎにプロトタイプ分析を施して命令文の力の行使を数値化するパラメーターを提案し、間接指令文との使い分けを含む多様な現象を扱いました。最後に本分析の日本語を含む他言語への適用可能性を示唆しています。

この研究を始めたきっかけは、命令文についての定説や教科書的説明に対する疑問にありました。例えば「命令文はself-controllableな動詞にふつう制限される」のは有名です。しかし英語にはそのような動詞が数百もありどれが頻繁に使われているのかわかりません。「命令文はふつうorderかrequestを伝える」と説明されます。しかし実際はそんなに単純ではありません。「命令文は丁寧さに欠けるため英語話者は避ける傾向がある」と解説されますが、この「常識」を検証する研究はありませんでした。

本研究はこれらの疑問への回答を試みたものです。原稿執筆にあたりとくに心がけたのは量的分析と質的分析のバランスでした。命令文と発話行為が研究テーマではありますが構文と動詞の関係、頻度と言語構造、ポライトネスの問題とも深く関わっています。なお審査委員の先生がご指摘のとおり提示した理論には改良すべき点が残されています。今後は理論を修正し未解決の問題と関連現象へと研究を広げたいと考えます（本書の書評が2013年11月現在、*Linguist List* (2012, Oct 13, 23. 4288)と*Functions of Language* (2013, 20/1)に掲載されています）。

最後に、審査委員の諸先生には長い原稿に目を通して頂き貴重なご提案を下されたことに心より感謝申し上げます。学会事務局の諸先生には応募から受賞に至るまで大変お世話になりました。ありがとうございました。